

## 令和6年度三島市歯科口腔保健推進会議 会議録

日時	2024年10月10日(木) 14:00～15:30
場所	三島市保健センター東館1階
配布資料	<p>【事前送付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議次第</li> <li>・資料1「第2次三島市健康づくり計画令和5年度実施計画(実績)」</li> <li>・資料2「第2次三島市健康づくり計画令和6年度実施計画」</li> </ul> <p>【当日配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・席次表</li> <li>・資料3「三島市の歯科口腔保健 主要事業」</li> <li>・資料4「令和6年度 厚生労働省 就労世代の歯科健康診査等推進事業に関する実証事業(モデル事業)への参加について」</li> <li>・第3次静岡県歯科保健計画と三島市の歯科保健の現状</li> <li>・冊子「第2次三島市健康づくり計画」</li> </ul>

### 1 委嘱状交付

4名に交付(欠席者1名には後日郵送)

### 2 部長挨拶(こども・健幸まちづくり部長)

本日はお忙しい中、三島市歯科口腔保健推進会議に出席いただき感謝。人生100年時代に本格的に突入する中で、誰もが、より長く元気に暮らしていくための基盤として、健康の重要性はより高まってきている。口腔の健康と全身の健康の関連性について、口腔衛生状態と誤嚥性肺炎との関係や歯周病と糖尿病等の基礎疾患との関係等が指摘されている。また、生涯にわたる歯・口腔の健康が社会生活の質の向上に寄与することも踏まえると、口腔の健康を保つことが不可欠。国では、歯科口腔保健の推進に関する基本的事項の全部改正を行い、令和6年度から、基本的事項(第二次)と「歯・口腔の健康づくりプラン」を展開しており、その中で「個人のライフコースに沿った歯・口腔の健康づくりを展開できる社会環境の整備」などに重点が置かれている。そのためには、市民一人ひとりの主体的な取組はもちろんですが、家庭、行政、学校、事業者、医療機関などが連携し、社会全体で取り組んでいく必要がある。この度、市では、歯周病リスク検査キットを活用した厚生労働省のモデル事業に参加する。この事業は、歯科受診への動機づけが課題となっている就労世代をターゲットに、検査キットを活用して歯科保健から医療へのスムーズな橋渡しを図るもの。本日の会議では、事業概要の説明と、委員の皆様にも実際に検査キットをご利用いただいた上で、今回のモデル事業、あるいは、更に効果的な取り組みなどをテーマに、委員の皆様それぞれの専門的見地から、忌憚のないご意見・ご提言をお願い。

### 3 会長挨拶

従来からの課題で、これからも議論の中心となるであろう歯周病検診受診率などの問題に関し、行政側の様々なアイデアや取り組み、アプローチについて説明を受け、同時にこれらに対し、様々なフィールドでご活躍されている皆様から広くご意見を伺い、活発な討論の上、意義ある会議となることを希望し期待している。このような会議の結果は、歯科業務に関わる我々歯科医師を含め、口腔保健に関し、行政との連携の上で必須であり重要な指標となる。本日の貴重なお時間を市民の皆様にとって有効となるようお願い。

### 4 議事

#### 1) 令和5年度三島市歯科口腔保健推進事業報告について

#### 2) 令和6年度三島市歯科口腔保健推進事業計画について

<事務局説明>(資料1・2)

<静岡県説明>(資料「第3次静岡県歯科保健計画と三島市の歯科保健の現状」)

<質疑応答>

【A委員】フッ素はすごく大事だと思うが、今、洗口剤の有用性が言われていて、特にコロナの感染症のときに口腔内を歯ブラシで磨いたときに、口と咽頭までの汚れがとれるのが25%という何かのデータで前に見たとき少し驚いた。CPCとかいるんな抗炎症薬みたいなのをに入れて、ブクブクとガラガラうがいと一緒にやって、ある程度綺麗にするという考え方が今よく出ているが、これについて県は何か考えていることがあるのか。

⇒【B委員】ゴロゴロうがいは口腔機能がしっかりしているかを確認するのも良い方法で、それができればオーラルフレイルの予防にもなるし一番の方法だと聞いていますが、CPCとフッ化物を合わせたものの予防は、おそらく今のところ県の方ではまだ検討してないかと思う。むし歯の方に対してのフッ化物洗口に関しては、子どもから大人までということで、皆さんへの実施を勧めているが、その件は、今後の検討材料にさせていただきたい。

### 3) 三島市の歯科口腔保健事業について

<事務局説明> (資料3)

<質疑応答>

【B委員】 歯周病検診の20歳30歳が増えたことで、幼稚園、保育園や小学校の保護者の方向けに、お子さんを通じて啓発するというのはとても良いことだと思う。若い方たちに周知するのはLINEなどのSNS等を使ったほうが良いのではないかとかという意見も出たりするが、三島市ではそういうところで周知をされているのか。

⇒【健康推進室長】 三島市は、公式LINEはあるが、まだトライをしたことがないのが実情。LINEを使うと、より多くの方に情報発信できるが、どの課もLINEを使いたい。ただ、広報担当課では、全市民に関わるようなことなどを対象としており、断られる可能性もあるが可能かどうか探っていきたい。

【A委員】 歯周病検診の受診率、特に40~70代というところ、70歳なんかの受診率が高いところが西伊豆町、吉田町松崎町、川根本町、南伊豆町というように、人口の少ないところに高いスコアが出ていて、沼津、富士、静岡あたりは少ない。三島市が5%6%のところ、20%近くというのは歯周病検診の受診率としては夢みたくない話なので、何かその辺で取り組みの取っ掛かりがあれば教えてほしい。

⇒【市歯科衛生士】 沼津市は、集団検診で実施しており個別に比べると、どうしても低くなると聞いたことはある。

⇒【B委員】 例えば一番受診率が高い南伊豆は、日曜日に歯科検診を受けられるようにしたり、かなりきめ細かく、その方たちが受けられるよう、個別に加え、さらに集団をやっというところで、熱心に工夫しているのはあると思う。

藤枝市は市の保健センターと歯科医院、歯科医師会、薬剤師会の三師会が非常に近い場所にあり連携が取りやすく、市の中に医療の担当課があるということが突出要因なのかなと思う。藤枝市の場合は、歯周病検診だけではなく、特定健診とか他の検診でも受診とか高く、三師会と行政の連携が良い。

【A委員】 三島市でも、私たちが協力していきますので、ぜひ受診率を上げていきたいと思っている。

【C委員】 自分の子育て時代を思い出してみると、中学生時代が、塾も忙しい、部活も忙しい、お父さんお母さんが忙しくて、歯医者に行っている暇がないという感じでしたので、例えば学校に先生が来てくださってこう見てくださるとか、子どもが行けそうな場所とか時間に窓口があるなどの方法があると良いと思う。

【B委員】 中学生の虫歯が多いが、中学校になってからだけでは予防は難しいので、永久歯のほとんどが生えてくる小学生の時代から継続してやっていただくことが中学生にとっても良いし、中学になって新しい永久歯、第2大臼歯という歯が4本生えてきますので、それがそれから100年生きていく間にとっても大事な大臼歯になりますので、三島市の学校現場の先生方ご協力をお願いして、学校におけるフッ化物洗口ができると、より予防効果が高く、小学校6年生までこれだけ減らしていただいているのですが、その間に生えてきた永久歯も、小学校6年生になって生えた永久歯もそれからすごくむし歯になりやすいところに差しかかって、中学卒業するとまた虫歯が増えるというのがわかっているの、ぜひ、予防がしっかりできるように取り組んでいただきたい。

【D委員】 C委員がおっしゃったとおり、三島市の保健師は各町内に1人か2人いるが町内で健康講座を開いています。ここに歯科の先生が行けば、10数人の歯科検診ができる。なぜそういうことができないのかなと思う。

⇒【A委員】 取り立てて何かできない理由はないが、こういうことは、行政とタイアップして形をつくらなければならないので持ち帰りたい。

【E委員】 D委員が言ったようなことは、とても大事なことです。私は仕事で東伊豆の方に、集団の生活指導に行っているが、歯科医院が少ない。三島市は52カ所もあるので活用していかなければいけないと思う。できないのではなく、できるようにしていくことはすごく大事だと思う。先ほどのオーラルフレイルの話も、名前だけ知っていても、中身を知らない人結構多い。役所の方たちも、そういうところをもっと前に出していけないと、何も始まらないと思う。D委員の活動を聞いていてすごく良かったと思うので、市民の活動を市が知って活用してもらいたいと思う。

【A委員】 今のご意見について、三島市の歯科医師会も、健康づくり課でも十分見込んでいきたいと思っている。

### 4) 意見交換

<事務局 意見交換テーマ説明> (資料4)

テーマ：就労世代の歯科受診率向上と検査キットを活用したモデル事業

<検査キットの試用>

<意見交換>

【F委員】 検査自体はすごく簡単で良いと思う。少し費用はかかると思うが、きっかけづくりとしては良い。歯周病検査はまず見た目で見えないところがある、検査はレントゲンか歯周病検査というのを、歯科衛生士がドクターが歯と歯茎の境目を測るという手間がかかる検査が必要。こういったもので、きっかけづくりということであれば、非常に良いと思う。歯周病検査は簡単なものはあまりなく、歯周病菌は嫌気性菌で空気に触れると死んでしまう菌であるため、歯周病菌の菌の検査はできない。今まであったこのような手軽な検査は、口の中の鮮血の検査というのはあったのですが、それも市販しているものは少なく、歯科衛生士の教本からも無くなっている。この検査の精度は分からないが、興味を引くという意味では、すごく有効だと思う。お子さんの1歳半健診とか3歳検診に来られているお母さんっていうのは非常に良いアイデアだなと思いますが、本当にリスクが高まるのはもう少

し年齢上の方なので、事業所とか、その人たちが受けられるような場所であれば費用はかかるけども良いものだと思う。

【G委員】私は、循環器内科医としても診療しております。歯周病について、このキットがどの程度の感度、特異度、陽性的中率があるのかわからないが、これをきっかけに、歯周病検診に行き、更に治療するというところまでいくとかなり素晴らしいことだと思うので、ぜひ、しっかりしたデータがとれるといいなと思っている。歯周病については歯だけの問題ではなく、糖尿病や全身的な動脈硬化性疾患、特に狭心症心筋梗塞といったものにかかなり関係がある。川で例えると上流の方をまず手当するっていうことになってくるので、とても大きな意味を将来もつと思う。あくまで個人的な意見ですが、400円は決して高くはないんじゃないかなと思う。ただ、この事業でもし本当に人々の行動が変わり、歯周病に目が向いて検診受診率も上がれば、歯周病の有病率も下がってきて、それは何年後かに、結構時間かかると思いますが、将来的な動脈硬化性の疾患を減らす可能性もあるかもしれない。

【A委員】400円ってというのは、大量生産すればもっと安くなるのか。

⇒【健幸推進室 担当】参考見積では、注文数による単価の下落は見られなかった。

【A委員】的中率ってというのはこれから三島市でもやってみて、実際どうなのかというのは三島独自でデータ出せるといいなと思っている。

【H委員】歯周病リスクチェックということで簡易的なチェックは良いと思う。今、G委員が言われたように、生活習慣病を予防する意味で、食事、食育が大切だと栄養士会として思っている。健康づくり計画の49ページにも、三島市の現状と課題ということで、食育を通じた口腔機能の健全な発育や、オーラルフレイル対策にも注力していく必要があるとある。沼津市のある歯科医院で食育担当ということで、管理栄養士の求人募集を最近見た。A委員にお伺いしたいのですが、歯科医院の管理栄養士の採用とか配置ということは、進んでいらっしゃるのかということと、三島市の現状などを教えていただければと思う。

【A委員】とりあえず何も考えてないです。でも、今こういう話を聞くと、その必要もある。ただ、歯科医院は結構小さい単位なので、管理栄養士を採用する余裕があるのかなとも思う。何院単位でとかならできるのかなと、おぼろげに考えている。

【B委員】東部管内では、沼津市がLDH NAGATAというのを実施されて、今年度も継続しようかなということで、国のモデル事業の間は、費用負担は市や歯科医師会にはかからないのですが、これから先は400円かかるかもしれない。厚生労働省の方で幾つかの簡易検査キットを開発しており、その中の1つがこの検査なので、感度や特異度というのはある程度担保されているものではないかなと思う。A委員が言われたように、もっと利用するところが増えれば、もしかしたら単価が安くなっていけばいいなと思う。今日、委員の方で、商工会やJAの方がいらっしゃるので、ぜひ、こういう簡易検査にご協力をいただくと良いのかなと思う。

【I委員】JAでは定期健康診断は必須となっている。その中でこういった簡易的なものは、きっかけづくりという形の中で、全職員が定期健康診断受けているので、その場で検査し自分で把握し治療を受けるという、チャンス、きっかけには十分なり得ると思うので持ち帰らせていただき、次年度以降、提案していただきたいと思う。

閉会